



9月始まる

始まりはいつも雨降り…とかいう曲があったようま気がするが、雨の一日から新たなスタートである。

避難訓練の後の「センター出願指導」では、「いよいよ…」という気持ちになっただろうか。I田先生の話はずいぶん丁寧で長かったが、それだけ担当としては心配事があるということだろう。かく言う私も心配である。

その第一は、まず自分自身(笑)であって、君たちから預かった願書をどこかに置き忘れたりするのではないかという不安がある。願書には名前が書いてあるから無くなることはないと思うが、なにせ個人情報満載であるから、その扱いはいくら注意しすぎてもしすぎるということはない(英作文風…)。だから、昨日も言ったが、廊下でぼったり出会った時などに私に託すことのないように!

第二は、君たちの記入ミス。志願票の第I面は、下書き用を提出してもらい、見本と見比べながら丁寧に仕上げれば、ほぼ心配はないと思う。昨日提出してくれた諸君のものでは、

- ①濁点に一マス使っていない
- ②電話のハイフンが抜けている(「自宅」を○で囲っていない)

というものがほとんど。一部、カタカナ記入の部分と漢字記入の部分不一致な人(例えば、カタカナで「ナガタチヨウ1-2-3」と書いてあるのに、漢字では「1丁目2番3号」となっているとか)がいたが、ほぼ大丈夫だろう。

ちなみに、大学入試センター主催の説明会では、I田先生も例として挙げていた「親が記入したせいで性別が違っていた」「親が記

入したせいで生年月日が違っていた」といった事例も採り上げられ、私は「未だに親に書いてもらっている受験生がいるのだ(なりけり)」と詠嘆したものである。

さて、志願票の第II面だが、これは君たちの自己責任でしっかり記入すること。繰り返すが、一度出願したら受験科目は変更できないから、自分の志望大学の科目に合わせて選択することが重要だし、もし迷ったら、国数英に関しては「受験する」を、社会に関しては「2科目受験する」を、文系理科は「A」、理系理科は「D」を選択すべきだろう。

なお、地歴・公民でとりあえず2科目受験することにしておいて、結果として1科目で済むことになったとしても、受験当日は、1科目目の時間帯から出席しなければならないことに注意しておこう。つまり、1科目目の時間帯に受験して、2科目目の時間帯に暇にしているしかないということである。というのも、1科目しか受けないからといって2科目目の時間に出向くと、教室に入れてもらえなかったりする可能性があるし、多くの大学では1科目目に受験した科目の得点を採用するといった決まりがあるからである。(2科目受験することにしておいて、結果として2科目目から受験すると、1科目目が0点…)

最後に、検定料払込書の「検定料受付証明書(E)」に、払い込みの日付印をもらうのも忘れずに。

*

現役生は学校ごとの出願であるから、一人の不心得者がいるとそれが全体に影響する。そのことを認識してきちんと準備しよう。